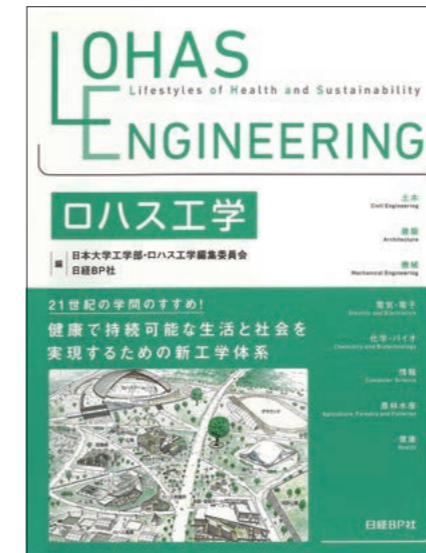


新刊紹介



ロハス工学

編者：日本大学工学部・ロハス工学編集委員会、
日経BP社
発行：日経BP社
仕様：A5変形判、308ページ
定価：2,900円(税別)

経済の主役が農業から工業に変わった18～20世紀。この間の工業文明を支えた鉱物とエネルギーの天然資源の多くは、過剰な採掘から「資源枯渇」の時期を迎えようとしている。また同時に、この200年間に急速に進行した「自然破壊と環境汚染」はぜんそくなどの健康被害(公害)を引き起こすものとなった。

このような問題を解決するため、国連加盟国を中心にSDGs(持続可能な開発目標)が注目されるなど、健康で持続可能な生活と社会を実現することは、これからの私たちにとって必須のテーマとなっている。

そんななか、大量生産・大量消費、使い捨てと自然破壊、環境汚染などをもたらす現代の生活スタイルを「不健康で持続不可能」と考える人が増えてきた。こういった人々たちから「飽食・モノ余り・金余り」の消費生活を脱却し、「持続可能で健康な生活を可能にする健全な社会と文化」を創り出そうという動きが出てきている。このような機運の中で生まれたのがLOHAS(Life

styles of Health and Sustainability)である。

こうした生き方を可能にするため、1990年代に米国で産声を上げた「ロハス工学」(LOHAS Engineering)は、土木や建築、機械、電気・電子、化学・バイオ、情報といった縦割りの学科の壁を超えて、「持続可能」を実現するために生まれた考え方であるという。わが国では、日本大学が20年ほど前から工学分野に応用した「ロハス工学」を提唱。土木や建築、機械、電気・電子、化学・バイオ、情報などの各分野を横断し、持続可能な工業領域のあり方を探っている。

本書では、ロハスを実現する工学的な技術や知識、事例を紹介している。土木や建築の設計思想からエネルギー利用、高齢化社会の豊かな生き方までを捉え、それぞれに関連する工業領域がロハスを目指すどどのように変化するのかを解説している。学生や社会人のほか、工学を駆使して課題解決を目指す研究者にも指針となる1冊である。是非ご一読願いたい。